

比べてみよう！二つの戦い（長篠の戦いと結城合戦を比べよう）

— 歴博との非来館型連携によるアクティブ・ラーニングの具現化 —

結城市立絹川小学校 秋葉 光博

1 実施学年及び教科・領域

小学校第6学年 社会科

2 学習のねらいと博物館の活用との関連について

(1) 単元名

「3人の武将と天下統一」

(2) ねらい

① 学習指導要領との関連

小学校学習指導要領・社会科 「第3節 第6学年の目標と内容」の目標(3)に「社会的事象を具体的に調査するとともに、地図や地球儀、年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用し、社会的事象の意味をより広い視野から考える力、調べたことや考えたことを表現しようとする力を育てるようにする。」とある。

そこで、本実践では、上記の具現化のために次のことを焦点化して指導を行った。

ア 社会的事象の調査や資料を活用する中で、児童が主体的に活動し協働して学ぶことができるための授業形態の工夫をすることで、アクティブ・ラーニングの具現化を図った。

イ 児童がより効果的に資料を活用するために、博物館との連携により、児童が興味・関心のもてる具体的でわかりやすい資料提示を行った。

ウ 児童が調べたことを表現するために、ワークシートや授業形態の工夫を通じた言語活動の充実を図った。

② 単元の目標

ア 3人の武将やその時代に関心をもち、進んで調べようとしている。

(社会的事象への関心・意欲・態度)

イ 3人の武将が全国統一に果たした役割について問題意識をもち、学習の見通しをもって追究・解決し、言語などで適切に表現することができる。

(社会的な思考・判断・表現)

ウ 資料を活用し、3人の武将の行動や戦国の世が統一されていく様子について調べることができる。

(観察・資料活用の技能)

エ 3人の武将によって戦国の世が統一されたことが分かる。

(社会的事象についての知識・理解)

(3) 博物館との関連

① 活用方法

非来館型活用

② 活用資料

ア 実物資料 「火縄銃（レプリカ）」

戦国時代に使用された火縄銃のレプリカである。法律上、銃身は空洞ではないが、その他の部品は細部に至るまで本物と同じである。引き金や火蓋、火ばさみなどもすべて可動する。

イ 映像資料 「紙本着色結城合戦絵詞」（館蔵資料画像データベース）

1440年に、結城氏朝が、永享の乱で戦死した関東公方足利持氏の遺児である春王丸と安王丸を奉じて室町幕府相手に1年間戦った結城合戦の資料である。国立歴史民俗博物館所蔵のものを画像データとして送っていただき活用した。高機能の画像処理をしてあるので、パソコンの操作で拡大しても画像がきれいであり、細部を拡大して調べることが可能である。



火縄銃のレプリカ



紙本着色結城合戦絵詞

(4) 指導観

① 地域・児童の実態について

本校のある絹川地区は、筑波山をはるかに望む茨城県西部の結城市東側の田園地帯である。結城合戦の舞台となった結城城跡は本校より2.8キロほど北東に位置する。本学区は、古くから全国的にその名が知られている「結城紬」の産地でもあり、現在もその伝統を受け継ぐ「織場」が地区に多くある。また、近年結城駅南開発に伴い工業団地も造成された。

本校の児童は、素直で学習意欲も高い。しかし、学習の主体性や協働的な学び等に関してアンケート調査等の結果からまだ不十分な面も見られる。

② アクティブ・ラーニングの具現化について

アクティブ・ラーニングは主体的・協働的な学びである。そこで、具現化するにあたって次の2点を留意し実践を行った。

ア 児童がどのような知識・技能を習得したかではなく、知識や技能の習得

においてどのような過程を経たのか。(主体的な学び)

イ 児童がどれだけ知識や技能を習得したかではなく、集団からどのように知識を享受できたのか、個人の考えが集団の中でどのように生かされたか。(協働的な学び)

アクティブ・ラーニングでは「学習者の主体的・能動的な学び」が不可欠である。

そのために、講義型の学習で、知識・技能を習得するのではなく、児童が主体的に活動することで知識・技能を習得することが大切である。

そこで、本実践では資料を基に課題を調べる過程で、児童が自ら資料を調べ考察する活動を行った。社会科の場合、児童の主体的な学びを保障するものは、「児童の興味関心を引き出す資料」「児童に考えさせる資料」である。そこで、本実践では、上記の(3)で述べるように、博物館と連携してより効果的な資料を準備した。

また、4～5名による調べ学習を行うことで協働的な学びを実現した。その際には、2つの資料を対比させてその差異や共通点を考えることで学びの深まりをもたせたり、実物資料や教育機器を操作することで楽しみながら調べ学習を行ったりすることができるように留意した。

また、本時の学習課題を児童が話し合いながら考えることで、「指導者の提示した課題」から「児童自身が考えた課題」への転換を図り、より児童が問題意識をもって学習できるようにした。

③言語学習の視点から

平成28年度茨城県学校教育指導方針の中で、言語活動の役割について知的活動に関することを挙げ「ア 事実を正確に理解し、他者に的確にわかりやすく伝えること」「イ 事実等を解釈、し説明するとともに、互いの考えを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させること」の2点を示している。さらに、社会見学のレポートにおいて、「視点を明確にして、観察したり見学したりした事象の差異点や共通点をとらえて記録・報告する。」ことを学習活動の例としてあげている。

そこで、本実践では言語活動の充実について具体的に次のような工夫を行った。

ア 調べ学習の中でグループ学習を取り入れ、資料について協働して調べることを通して、自分の考えを伝え合い、グループの意見が深まるようにした。

イ グループで調べた内容をクラス全体に発表することを通して、調べたことやわかったことをまとめて他者にわかりやすく伝えられるようにした。

ウ 2つの資料を比べることで差異点や共通点を捉えて記録できるようにした。

エ 本時の学習のまとめを、キーワードや文字数、所用時間を限定して記述

することで、思考力・判断力・表現力の向上を図るようにした。

④指導者の役割について

アクティブ・ラーニングの具現化は「教える」から「学ぶ」へのパラダイム転換であるといえる。そのために指導者には、今までの歴史学習にありがちだった情報の伝達＝説明や解説という役割ではなく、授業の推進者＝ファシリテータとしての役割が必要になってくる。

そこで、授業で指導者がファシリテータとしての役割を果たすために以下のことを心がけた。

ア 学習内容の説明ではなく、授業の流れを説明し授業を進行する。

イ 資料を調べる方法、教育機器の使い方についての説明を行う。

ウ 児童の調べ学習に関して、児童の気付きを取り上げ、学びが深まる助言を行う。

3 指導計画（110分扱い）

| 過程 | 時間 | ○学習活動及び内容 | □指導上の留意点 ■評価の観点 |
|------|----|--|---|
| 導入 1 | 45 | ○火縄銃について調べる。 ○火縄銃のレプリカをグループで調べる。 ○資料や補助資料等から、火縄銃の使い方や各部位の名称などを調べる。 | □火縄銃のレプリカを効果的に活用することで、児童が興味をもって学習活動に取り組めるようにする。 ■歴史上の文化遺産に関心を持ち、意欲的に調べているか。 〈ワークシート、関〉 |
| 導入 2 | 20 | ○結城合戦について調べる。 ○結城合戦の時代、戦った武将、場所等について、ワークシートにまとめる。 | □結城合戦が、結城市を舞台に室町時代に行われた戦争であることを理解できるようにする。 ■調べたことをワークシートにまとめているか。 〈ワークシート、技〉 |
| 展開 | 45 | ○長篠の合戦と結城合戦を比較する。 ○鉄砲によって戦いはどのように変化したのかを「長篠の戦い絵巻」と「結城合戦絵詞」の比較等を行うことで考察する。 | □鉄砲の伝来により戦いに変化したことを、資料を調べることで考えられるようにする。 ■我が国の歴史上の事象に関わる資料から学習問題を見いだし、資料をもとに必要な情報を集め、追求し、思考判断したことを言語などで適切に表現しているか。 |

| | | |
|--|--|---|
| | | <p>〈ワークシート、思〉</p> <p>■ 鉄砲の伝来によって戦いの様子が変化したことが分かったか。</p> <p>〈ワークシート、知〉</p> |
|--|--|---|

4 実践の概要

(1) 導入 1 火縄銃をしらべよう

① 導入 (5分)

資料提示 実際に指導者が火縄銃のレプリカを提示した。

② 調べる方法の確認 (5分)

指導者が調べる方法・要する時間を児童に提示した。

調べる方法

- ・ 火縄銃のレプリカや資料集や補助資料を基にグループごとに調べる。

③ 調べる (20分)

児童はグループごとに火縄銃のレプリカを実際に操作して調べていた。また、補助資料から、火縄銃の各部品の名称などを調べていた。さらに、資料集や補助資料から、火縄銃の使い方を調べていた。

④ 伝える。(10分)

それぞれのグループで調べたことをまとめて発表した。

実際に操作した感想を中心に発表したグループや、資料から調べた使い方を中心に発表したグループがあった。

⑤ まとめる (5分)

ワークシートに本時のまとめを個人で記入した。字数は80字以上100字以内、時間は5分、キーワードとして鉄砲・火縄銃・火薬を入れること、の3つの点を条件とした。児童は自分なりの言葉でまとめることができた。



火縄銃を操作しながら調べる



補助資料より各部品の名称を調べる

児童の感想より

- ・とても重かった。これをもって昔の人は走り回ったのだろうか。
- ・今とちがって一発うつのにとても時間がかかると思った。
- ・火縄銃はうつ前の準備が大変だと思った。
- ・大きくて重いからねらいをさだめたりするのが難しいのではないか。
- ・「火ぶた」という安全装置がついているなんてすごいと思った。
- ・弓とは比べものにならないくらい威力があったのだろう。

* 末尾の児童のワークシート 1 を参照

(2) 導入 2 結城合戦について調べよう

次時の学習のために、事前に結城合戦について予備知識をもつために調べ学習を行った。

① 導入 (5分)

結城合戦絵詞を拡大印刷したものを提示した。

② 調べる方法の確認 (10分)

補助資料等から結城合戦の年代、原因、戦った武将、場所、勝敗等についてグループごとに調べた。

教科書や資料集に一切記載がないので、補助資料だけでは調べきれない児童もいたので、個別に指導者が教える場面もあった。

絹川小学校からわずか3キロのところに結城の城があり、そこで室町幕府を相手に1年間にわたる攻防が繰り広げられたことを初めて知る児童がほとんどで、興味深く調べていた。

③ まとめる (5分)

ワークシートに本時のまとめを記入した。字数は80字以上100字以内、時間は5分、キーワードとして「結城合戦」と場所や時代を入れることを条件とした。

児童の感想

- ・結城氏朝は幕府を相手に1年間たたかったのがすごいと思った。
- ・1年間、結城の武士たちは結城を幕府から守ったのはえらいと思った。
- ・室町時代の関東三大合戦の一つが結城にあるとは知らなかった。
- ・春王丸と安王丸を幕府に差し出さなかった結城氏朝はえらい。
- ・こんな大きな戦いが教科書に載っていないことがふしぎだった。
- ・結城が幕府に負けて残念だった。

(3) 展開 鉄砲の伝来で戦いはどのようにかわったのだろうか。

① 導入 (2分)

火縄銃のレプリカを示して既習事項の確認を行った。

② つかむ (5分)

本時の学習問題を考える。指導者が鉄砲というキーワードを示し、児童か

ら「戦いの中で鉄砲はどのように使われたのだろうか」「なぜ鉄砲を使った武将が戦いに勝ったのだろうか」など鉄砲に関する様々な意見が出た。その中の1名から「鉄砲の伝来で戦いはどのように変わったのだろうか」という発言があり、本時の学習問題とした。

③予想する（3分）

学習問題に対する答えを予想する。

児童の予想

- ・止まりながら戦うのが増えた。
- ・戦いがはげしくなった。
- ・刀で戦う人が減った。
- ・鉄砲を使った方が有利になった。

④調べる（20分）

指導者が黒板に「長篠の戦い絵巻」と「結城合戦絵詞」の拡大図を掲示して、二つの資料を比べながら、差異と共通点とを調べることを指示した。その際、長篠の戦いは教科書や資料集に記載されているが小さいので虫眼鏡を使用すること、結城合戦絵詞はパソコン画面で拡大してテレビで見えて調べることなどを助言した。

児童は、グループで二つの資料を対比させながら、グループで積極的に調べ学習を行い、以下のような気づきが見られた。

児童の気づきより

- ・鉄砲を使った戦いの方が、相手との距離が長い。結城合戦は接近戦だ。
- ・長篠の戦いは数日で終わったのに結城合戦は1年もかかっている。
- ・よろいやかぶとをつけているところは同じだ。
- ・長篠の戦いでは馬防柵を使っている。
- ・結城合戦は弓を使っている。
- ・結城合戦は1対1で戦っているが長篠の戦いは集団で戦っている。



虫眼鏡で長篠の戦いの細部を調べる



データを操作しながら結城合戦の細部を調べる



調べたことをもとに話し合う



児童の気づきを指導者が認め、学びが深まる助言を行う

⑤ 伝え合う。(10分)

各グループで調べたことを発表した。



調べたことをクラス全体に発表する



板書の様子

⑥ まとめる(5分)

ワークシートに本時のまとめを個人で記入した。言語活動の充実を図るためにまとめに字数は80字以上100字以内、時間は5分、キーワードとして「鉄砲」を入れることを条件とした。

児童のまとめより

- ・ 結城合戦は、刀ややり・弓矢などを使って戦っていたが、長篠の戦いや鉄砲を使って戦っていた。どちらも激しい戦いだったが結城合戦は1年続いたが長篠の戦いは数日で終わった。
- ・ 鉄砲を使わない戦いは、相手に近づいて戦ったが、鉄砲を使うと相手との距離が遠くなった。鉄砲によって戦い方が変わった。
- ・ 鉄砲を使ったことで戦いが大きく変わるということが分かった。鉄砲を使うと遠くからでも敵をねらえるので戦い方が変わった。武士の服装や馬を使うことは変わらなかった。
- ・ 鉄砲を使うと遠くからでも相手を攻撃できるので鉄砲をたくさん持っている方が有利だと思った。結城合戦の時に鉄砲があれば結城氏は幕府に勝ったかもしれない。

5 成果と課題

(1) 成果

- ・博物館との連携により、資料を効果的に活用したところ、児童が、自ら問題を考え、主体的・能動的に学習を行うことができたことが授業中の児童の調べ学習の様子から見られた。
- ・学習形態を工夫し、グループによる調べ学習を行ったところ、児童は協働して学習を行い、集団で知識を共有できたことが、児童のグループ学習の様子やワークシートから見られた。
- ・ワークシート等の工夫を行い、書くことによる言語活動を学習に取り入れたところ、児童の思考力・判断力・表現力が向上したことが児童のワークシートから見られた。
- ・身近な資料である「紙本着色結城合戦絵詞」を活用することで児童の歴史学習に対する興味・関心が高まった。

(2) 課題

- ・グループでの協働学習の中で、自分の考えを他の児童に伝え合う「協働的な学び」がさらに活発になるように各教科の枠を超えた横断的な指導が必要である。
- ・本プログラムには汎用性が乏しい。汎用性を向上させるために、歴博所蔵のデータベースの中から「紙本金地着色木曾義仲合戦図屏風」や「後三年合戦絵詞」のように鉄砲伝来以前の合戦の様子を表した資料の中で授業実践を行う地域と関連があるものを活用する。そして、本実践の「結城合戦絵詞」に変えて児童に提示し、教科書の「長篠の戦い」と対比する活動を行う活動、つまり「長篠の戦い VS 郷土の合戦」という構図の授業を行う事で汎用性が高まると考える。

6年社会科ワークシート その1

6年(2)組

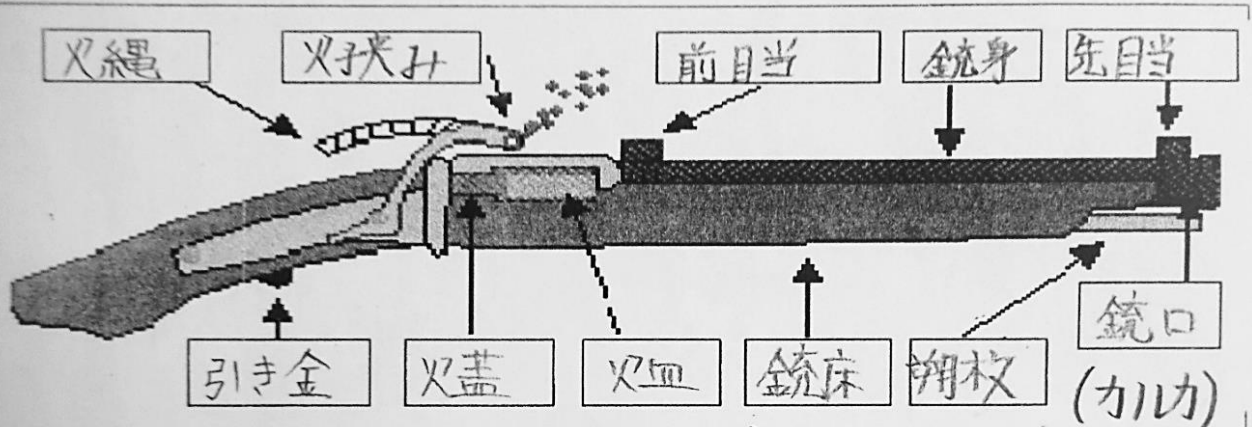
めあて

火縄銃を調べよう。

よそう

・縄に火をつける

調べたこと



<火縄銃のうちかた>

資料+(火縄銃)

- ・筒先から火薬を入れます。
 - ・鉛のたまを入れます。
 - ・かるかでつきかためます。
 - ・手もとに点火薬を盛りつけます。
 - ・火の縄を火引きにはさみます。
 - ・ねたいをさためます。
 - ・的にねらいを定めます
 - ・安全のための火引きを開けます。
- (1はっうつのに3分ぐらいかかるそうです)

まとめ (キーワード 鉄砲 火縄銃 (ひなわじゅう 火薬) +思ったこと

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 今 | の | 警 | 察 | が | 持 | っ | て | い | る | 鉄 | 砲 | よ | り | 火 | 縄 | 銃 | の | 方 | | |
| が | 大 | き | く | て | と | て | も | 重 | い | で | す | 。 | 火 | 縄 | 銃 | は | 筒 | 先 | か | |
| ら | 火 | 薬 | を | 入 | れ | た | り | 鉛 | の | た | ま | を | 入 | れ | た | り | な | ど | じ | |
| ん | び | が | お | ず | か | し | い | で | す | 。 | 1 | は | っ | う | つ | の | に | 3 | | |
| 分 | ぐ | ら | い | か | か | る | そ | う | で | す | 。 | す | ご | い | と | 思 | い | ま | し | た |

6年社会科ワークシート その3

6年(2)

めあて

鉄砲を使って戦いはどのように変わっただろうか。

よそう

・戦いが有利になった

しらべたこと

| | | |
|-------|--------------------------------|--------------------------------------|
| 戦いの名前 | 結城合戦 (ゆうきかっせん) | 長篠の戦い (ながしののたたかい) |
| 戦った人 | 結城氏朝 対 幕府 | 織田軍 対 武田軍 |
| 勝者 | 幕府 | 織田軍 |
| 年代 | 室町時代 1440年~1441年 | 安土桃山時代 1575年 |
| 違うところ | 弓矢や刀を使う 鉄砲は使わない 近きよでこうげき | 鉄砲を使う 遠きよでこうげき(織田軍) 馬防柵をつかっている |
| 同じところ | どろろも馬を使っている よふいと着ている | |

まとめ わかったこと+自分の感想 (キーワード てっぼう)

結城合戦では弓矢や刀を使う、このころ、長篠の戦いでは鉄砲を使っている。刀は近きよりのこうげきしかできないけれど、鉄砲なら遠きよりのこうげきもできるの、鉄砲を使った方が戦いが有利になるんだなと思った。